ARTA
AUTOBACS RACING TEAM AGURI
DIGITAL
2016

2016 SUPER GT Rd.3 SUGO

THE REASON FOR THE DEFEAT

「敗北と向き合う力。」

ARTA AUTOBACS RACING TEAM AGURI Project

ARTA
AUTOBACS RACING TEAM AGURI
DIGITAL
2016
NTT
TOBACS
64

「46に邪魔された！」野尻智紀が無線で叫んだ。
予選Q1の真っ最中、タイムアタックが台無しになった。
「なんであんなに邪魔したのか、意味が分かんない！
こっちは完全に全開でアタックしてんのにさぁ！
ウィービングしてるのに邪魔してくるんだよ、あり得ないでしょ！」
もう一度アタックしようとしたところに赤旗。
8号車ARTA NSX CONCEPT-GTは朝のフリー走行で3位のタイムを記録していたのに、
満足にアタックするチャンスすら与えられないままQ1敗退となってしまった。
早くも“菅生の魔物”が姿を見せたかとピットは騒然となった。

YAMAH
18

明けて日曜、レースを前に霧雨が菅生を包んでいたが、路面が濡れている箇所はごく僅かでしかない。
しかし魔物の影を感じるには充分な不気味さだった。
「ブレーキを温めて、路面のどこが濡れててどこが乾いてるか確認してよ」
55号車ARTA BMW M6 GT3のステアリングを握る高木真一に、エグゼクティブアドバイザーの土屋圭市が伝える。
スタートが切られると、狭いコースで必死にバトルを繰り広げる野尻がハイポイントコーナーで
ライバルと接触してスピン。グラベルに捕まってしまった。
「動けそう？ エンジンまず切って」「切りました」
「多分押してもらうか引っ張ってもらうしかないから、ちょっと待って」「出られた」
「了解、そのまま行きましょう。前の方でも波乱があるだろうから、ポイント獲得までしぶとく行くよ」
エンジニアの星学文が野尻を元気づけるように言う。

一方、6番グリッドからスタートした高木の55号車もタイヤの温まりに苦しみ、ポジションを落としていた。
ソフトタイヤはムービングが大きいため、ミディアムタイヤを履くしかなかったからだ。
「真一、ペース上がらないか？」「ツラいですね……。グリップが薄い感じがして、バランスは少しオーバーかな」
土屋からの問いに、高木は苦しさを吐露する。
それを聞いたピットウォールでは、土屋とエンジニアの一瀬俊浩が次のスティントに向けて相談を始めた。
「このタイヤ、ダメだろ。次、小林はどうするの？」「ソフトもありかなと思いますね」
しかし高木は「ソフトをつけるとよりオーバーになる可能性があると思う」と無線で伝えてきた。

CREATIVE
Super
AUTOBACS
CARLIFE STORE
OAKLEY

2輪だけ交換することも視野に入れていたが、4輪交換してプッシュする戦略に切り替える。
そのために高木は、次にステアリングを握る小林崇志に前もってアドバイスを与えた。
「最終コーナーの真ん中で荷重に負けてフロントタイヤが潰れるから、
そこだけ気をつけて走れば、立ち上がりは結構曲がっていくからアンダーにはなってないよ。
あまり勢いよく飛び込んでフロントをやっつけないようにだけ気をつければ大丈夫」
「タイヤ換えて最後までプッシュできそう？」
「やるしかないでしょ！」
セーフティカーが入ったのを契機に、ピットに飛び込んで小林にステアリングを託す。

一方、すでに2周遅れになってしまった8号車には上位争いのチャンスはもう残されていない。
「2周遅れだから、もう少し硬いタイヤを履いて様子を見てみるんだったらそれでも良いよ？」
状況を見ていた松浦孝亮が提案し、星も野尻もそれに賛成した。
どうせなら今後に向けて硬いタイヤでデータ取りをしようというわけだ。
しかしマシンのフィーリングは決して容易ではなかった。
「ヤバい、最終コーナーでハンドル切れないよ！ すげぇオーバー！」
高速の最終コーナーで松浦がマシンをフラつかせながら叫ぶ。
リアのグリップがなく、少しでもコントロールをミスすれば簡単にスピンしてしまいそうな状態なのだ。

しかし小林に代わった55号車は不運に見舞われていた。
ピットアウトした小林に土屋が「残り50周近くこのタイヤを保たせられるか？」と聞いていたその矢先、
SPコーナーでストップしている55号車の姿が映し出された。
「小林、動けるか？ バックできるか？」「どうやって入れるの？ バックに入らない」
「ニュートラルボタンを押してダウンシフト」
タイヤの温まりが悪く苦戦する中でアンダーステアが出てややラインが膨らんだところに、
アウト側から被せてきたマシンがいた。

「アレはだめだよ！
アウトからまくられてこっちは行き場がなくて当たっちゃったよ。
そこに突っ込まれた」
なんとか自走でピットまで戻ってきた小林だったが、
メカニックたちがチェックするまでもなく車両は大きなダメージを受けていた。
「ダメージが大きいんで無理そうです」
一瀬が力なく言い、55号車のレースはここで終わった。
ARTAは2台ともに実力を出し切ることなく、不本意な形で菅生のレースを終えることになってしまった。

「接触は残念だったけど、タイヤとクルマを上手くコンディションに合わせる事も
もう少し見直さなければならないね。
昨日の午前は上手くできていたんだから、できないことはないと思うんだよね。
次回は絶対に復活するよ」
鈴木亜久里監督は力強くそう誓った。
魔物が棲むと言われるスポーツランド菅生。しかしそれは人々の想像が生み出した産物でしかない。
時として理由のない勝利はある、

しかし敗北には必ず理由がある。
敗北の理由を魔物に求めるべきではない。
そうしなければ、本当に必要な次の一歩は踏み出せないはずだ。

SUPER GT公式予選01 GT300
AUTOBACS
BRIDGESTONE

RESULT

GT500

ARTA NSX CONCEPT-GT

松浦　孝亮 / 野尻　智紀

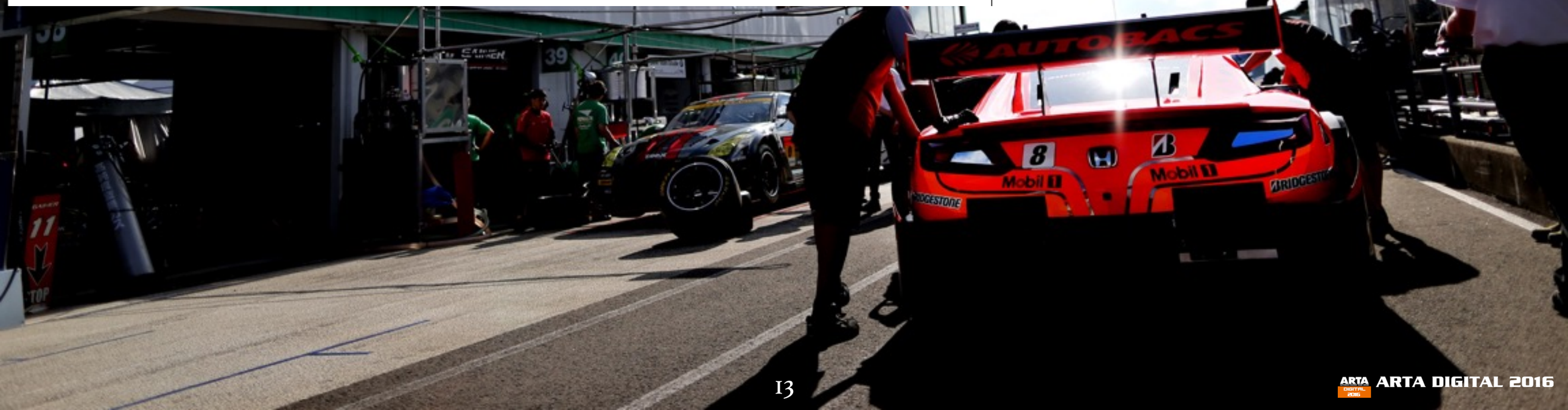
公式予選	決勝	TIME DIFF	BEST LAP	ドライバーズランキング
11位	14位	3Laps	1'14.605	12位

GT300

ARTA BMW M6 GT3

高木　真一 / 小林　崇志

公式予選	決勝	TIME DIFF	BEST LAP	ドライバーズランキング
6位	リタイア	40Laps	1'20.713	6位



ARTA
RACING TEAM AGURI
Project

ARTA
Project

株式会社オートバックスセブン

ARTA Project

ARTA DIGITAL
Youtubeチャンネル

To be continued next race.....

Team ZEROBORDER

Copyright c2014 ZEROBORDER INC. All rights reserved. No reproduction or republication

Director and Photographer : Masakazu MIYATA
Text : Mineoki YONEYA
Design and Web Creator : Akira YOSHIDA

Special Thanks : AUTOBACS SEVEN CO.,LTD